

その他の清掃・と畜業における荷姿の物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	14 ～ 15	約50㎡の部屋にて、移動していた物（机）を元に戻そうとした。机（約120×100×40、重さ約20kg）を持ち上げた際に背中に痛みがはしり、倒れ込んだ。	29 ～ 29	10 ～ 29
2	9~10	被災者は、当日、収集現場（被災場所）において粗大ごみとして排出されていた、タンス（高さ150cm×幅100cm）をごみ置場から収集車に積み込むために引っ張り出そうと、押したり引いたりして移動していたところ、押した際に、それまで動いていたタンスが何かに引っ掛かったようで急に止まり、押した力がそのまま右手首にかかり、手前に捻ってしまった。	51 ～ 99	50 ～ 99
3	8~9	被災者は当社産廃施設内で受け入れ管理に従事している。事故当時、1m立法の鉄製の網箱約300kg（野菜くず）をリフトで所定の位置に空け、その後人力で水洗い清掃するため箱をリフトで降ろして所定の位置に引っ張った際、左肩を負傷した。	49 ～ 9	1 ～ 9
4	6～ 7	小学校内において給食ごみを収集作業中に、中腰の状態で両手に持ったごみをトラックの方へ体を捻りごみを掘り上げる際に痛みが走った。	58 ～ 49	30 ～ 49
7	7~8	住宅街で生活ゴミの収集作業をしている時に、文化住宅のゴミのコンテナを引っ張り出そうとしたところ、地面が砂利のためコンテナが動きにくく、力を入れてひっぱったらコンテナをつかんでいる手が滑ってすっぽ抜けてしまい、そのまま体が後方へ飛んで腰を痛めた。	53 ～ 49	30 ～ 49
7	8～ 9	被災者はゴミ収集作業に従事し、運転手と共に終日作業に追われ、業務量も最近になく多量であった。翌日朝、右膝の異常に気付き、整形外科に行き療養を行ったもの	48 ～	10 ～

		である。		29
7	9～ 10	食品リサイクルセンター内において、受け入れ台に回収した生ゴミ500L容器の台車を搬出作業中、一箱ずつ運搬していた際、ゲートの重量で崩れて500L容器のバランスが悪くなったので、体勢を立て直していたところ、先に出していた500L容器との間に手が挟まり左手小指を負傷した。	27	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html